

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅰ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 佐伯 育郎

## 1 はじめに

本科目は、本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。前年度に終えた観察・参加実習（教育実習Ⅶ・小学校）の体験、各教科教育法の学びをふりかえり、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。小グループに分かれてからは、教材研究・題材開発、模擬授業に取り組む。空きコマなどを活用して、模擬授業に関する担当教員との打ち合わせを行い、指導を受ける。本実習終了後は、グループのリーダーによる実行委員会を中心に教育実習報告会を企画・運営・実施し、学修のまとめとする。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会Ⅰ・Ⅱ	1月～4月	・2年次後期の1月下旬（もしくは2月初旬）に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバーおよびグループ毎の目標を決定する。
グループ別模擬授業	4月～7月	・グループ毎に模擬授業に取り組む。 ・教材研究・題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打ち合わせを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。 ・グループのリーダーを中心に実習報告会実行委員会を組織し、4年生（前年度実行委員）との「教育実習報告会」引き継ぎ会を行う。
全体研究授業Ⅰ・Ⅱ、全体会Ⅲ、事後学修	7月～9月	・代表者による模擬授業（模擬授業45分・研究協議会40分、代表者2人、2会場、1回）を行う。 ・担当教員による激励、教育実習Ⅰのふりかえり、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。 ・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。

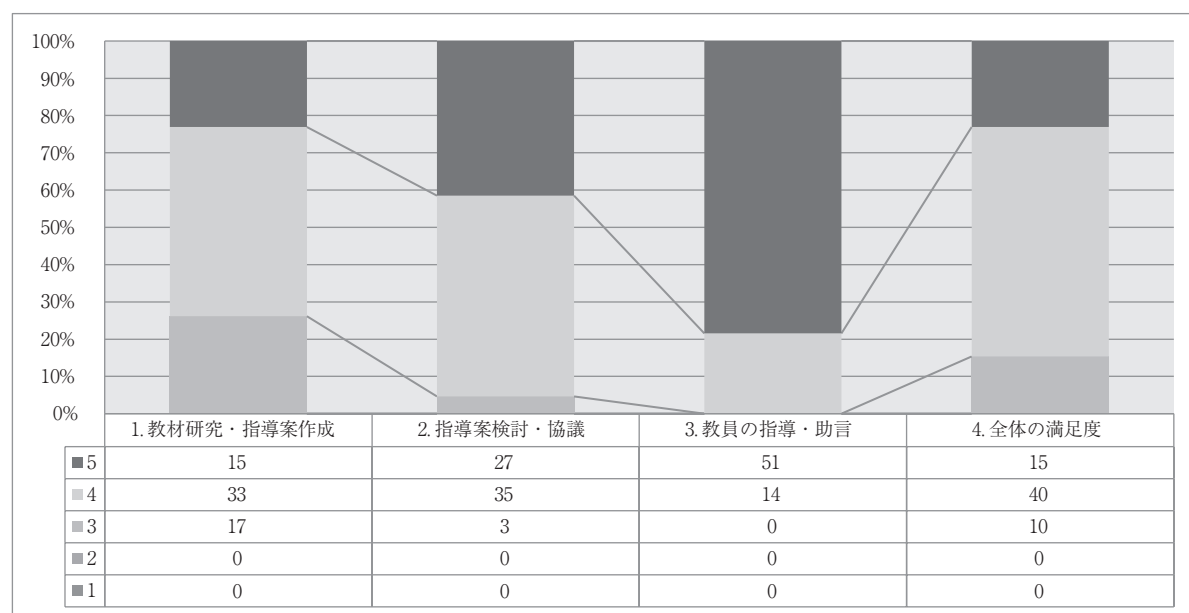
### 3 活動の概要

#### (1) グループおよび担当授業科目（受講者総数77人）

グループ (人数)	模擬 ①	模擬 ②	模擬 ③	模擬 ④	模擬 ⑤	模擬 ⑥	模擬 ⑦	模擬 ⑧	模擬 ⑨	模擬 ⑩	模擬 ⑪
A (11人)	国 語				体 育				理 科		
B (11人)	理 科				国 語				体 育		
C (10人)	体 育				理 科				国 語		
D (11人)	社 会			図 工			算 数			道 徳	
E (11人)	図 工			社 会			道 徳			算 数	
F (11人)	算 数			道 徳			社 会			図 工	
G (12人)	道 徳			算 数			図 工			社 会	

#### (2) 教育実習 I：全体振り返りシート（自己評価票）の集計結果（回答者65人，回答率84.4%）

最終講において，自己評価票（Glexa）による調査を行った。これまで用いていた自己評価票から，今年度実施できなかった項目，自分の授業や教員による示範授業の項目を除いた4項目で調査を行った。1. 自分自身の教材研究，学習指導案作成の取組，2. グループでの指導案検討・協議，3. 担当教員の指導・助言，4. 授業全体の満足度，の4観点についての満足度を5段階（5が最高，1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフの通りである。満足度は，3. 教員の指導・助言が最も高かった。



【令和2年度・教育実習 I 自己評価票 集計結果（A～Gグループ）】

## 4 成果と課題

今年度は、担当教員数の変更により、8教科から7教科に減少した。教科数の減少に伴い、これまでのA～Hグループから1グループ減らしたA～Gまでの編成となった。

担当教員で検討した結果、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、対面でのグループによる模擬授業の実施を見合わせた。模擬授業の代替として、Microsoft Teamsを用いたオンラインでのグループ別の学習指導案検討に振り替えた。第2講における教員による示範授業も、中止となった。全体会、教育実習報告会の引き継ぎ会も、オンラインで実施した。毎回のコメントシートや最終講で配付する自己評価票などの提出物への記述も用紙で行わず、Glexaの活用に切り替えた。

今年度も、担当教員による学生の評価、学生による自己評価にルーブリックを活用した。担当教員による協議の上、最終的に評定を決定した。

今年度の全体研究授業は、7月30日に行った。教科は、国語・算数・理科・道徳であった。対面で参加する児童数を絞り込み、Microsoft Teamsを用いてオンラインでの視聴参加も併用した。このような時期にも関わらず、代表に立候補した学生には、非常に感謝している。今年度は、教員による推薦がなくても立候補者だけで全体研究授業が成立した。今後も、学生による立候補によって成立することが望ましいと考える。

課題としては、全体研究授業の際に代表者、及び当該教科の指導教員に対する負担が大きかったことが挙げられる。この反省点を、何らかの形で反映し、少しでも改善していきたいと考える。



【令和2年度・教育実習Ⅰ全体研究授業（上段：国語・算数、下段：理科・道徳）】